（三）詩歌

ア　詩歌の指導法

教科書に取り上げられる詩歌教材は、詩・短歌・俳句の三つのジャンルが中心であるが、最近は、川柳や連句（付け句）、連詩といったジャンルも盛況であり、指導者にはジャンルにとらわれることなく、魅力ある古今の作品を生徒に紹介することが望まれる。「源氏物語」や「奥の細道」といった古典を見ても分かるように、詩歌と散文は決して相容れないものではなく、日本の文学の伝統においては深い関わりがある。詩歌を取り扱う単元を特別視することなく、取り扱う科目の一連の流れの中で、授業案を構築したい。

詩歌の授業における目標は、文学的な文章（散文）と同様に、表現の仕方に注意したり、想像力を働かせたりしながら読み味わい、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしていくことである。

詩歌でも、論理的な文章や文学的な文章（散文）と同様に、作品に描かれた人物や情景、心情などを表現に即して読み味わうことが求められる。内容の読み取りが恣意的なものとならないように、客観的な根拠を作品から探し出さなければならない。詩歌は一語一語に込められる意味の凝縮度が、散文に比べて一般に高い。そのため、散文の学習の時以上に、表現の特色に注意して読むことが必要となるだろう。ここで言う表現の特色には、作品の文体や形式（文語体と口語体、定型詩と自由詩など）、修辞技法（比喩や反復、倒置など）、同じ母音の繰り返しによる表現効果などが含まれる。以上のような表現の特色を、生徒たちに気付かせるために効果的な学習活動として、音読が挙げられる。声に出して読むことによって、作品特有のリズムや響きに気付くことも多い。また、初読の感想をまとめたり、必要に応じて作品の内容を詳述することも効果的である。さらに、同じ作者や同時代の詩歌を読み比べることによって、内容や表現の仕方についての特色を見いだし、理解を深めることができる。

ただし、余りにも細部を分析的に読むことに偏ると、作品全体の味わいを損なうことになる場合もある。生徒の主体的な読みを大切にしたい。

イ　近・現代詩の扱い方

近・現代詩は難解だというイメージをもたれやすい。だが、近・現代詩にも、論理的な文章や文学的な文章と同様、作者の伝えたい意図というものが存在する。そして、その意図は往々にして、論理的な文章が問題提起において挙げるような、日常生活でふと気付いた新たな発見であることが多い。それは、人間らしく生きるとはどのようなことであるのかといった哲学的なテーマから、語句の意味や用法の発見などの言語学的な問題など、多種多様である。例えば、「I was born」（吉野弘）を前者において説明すれば、「目まぐるしく繰り返される生き死にの悲しみ」となろう。また、後者においてみれば、「生まれる」という表現に潜む「生きることのはかなさ」が読み取れる。このように、主題の表現の場として、または理論の実験の場として作品は制作されている。理論の実験である場合、読解が困難に感じられるけれども、表現の特色に着目する点では、やはり、論理的な文章や文学的な文章に対するアプローチと何ら変わることはない。

学習順序を具体的に示せば、作品の形態・内容に応じた効果的な朗読、生徒の感想交流、各連・各行の内容検討、語句や修辞技法の理解、情景や心理の把握、文体・調べの構造の分析といった順序での読解作業となるであろうが、授業の最後に総合的な鑑賞及び感想の文章化の時間を取ることが肝要である。

ウ　短歌・俳句の扱い方

短歌と俳句は、日本の伝統的な詩の中で生き残った二つであり、ほとんどの新聞に短歌欄・俳句欄が設けられていることからも分かるように、世の中で広く親しまれている詩の形式である。したがって、古典和歌との関連を教えることも大切であるが、それ以上に、現代に生きる私たちの生活や心情を十分に表現できる親しみやすい表現形式であることを、生徒に実感させたいものである。授業の中では音読を大切にしたい。とりわけ短歌は声に出して歌われた時代の名残を受け継いだ詩であり、一つ一つの言葉の響きや五・七・五・七・七のリズムが、言葉の意味と同様に豊かなものを伝えている。また気に入った作品はぜひ暗唱させよう。散文と違って容易に覚えられる短歌や俳句は、生徒の心の宝物となるだろう。

（ア）短歌の指導

短歌の読解指導においては、場面の理解と心情の解釈がポイントとなる。省略や飛躍などの技法を駆使し、言いたいことを圧縮して示すのが短歌の表現であるが、圧縮された言葉を解いて元の場面を再現することが場面の理解につながる。作品に使われている修辞や用語を手がかりに、季節・時間・場所・天候などを具体化していくと、そこに表現されている心情もおのずと浮かび上がってくる。

作者や作品について調べ学習をさせるのもよいが、作者の履歴と作品の解釈を結び付けることには慎重でありたい。指導者は、一首の独立性を意識して、生徒の解釈を手助けするとよい。

（イ）俳句の指導

俳句の読解指導は、短歌との共通点も多いが、より困難な点もある。切れ字・季語等の式目に加えて、省略・切り捨ての多用、暗示的・即物的な表現態度、言外の余情など、俳句特有の表現上の特色が作品の解釈を難しく感じさせるからである。また、句意を正確に取るためには、作者の生活や時代背景、季語の使用方法などの予備知識が必要となることも多い。指導者はこれらの点を心得て作品理解を深めておく必要があるが、授業の際にはできるだけ生徒の読解を大切にするよう心がけたい。

情報量の少ない俳句の解釈は、生徒の経験や想像に委ねられる部分が多く、導入を工夫すれば、解釈を楽しむ生徒は少なくない。生徒が相互に解釈と根拠を述べ合い、交流を通して読解を深め合う活動を行うのに、最適な教材と言えるだろう。

指導のポイントは、短歌と同じく、場面の理解と心情の解釈であるが、切れ字と季語の指摘は確実に行いたい。そして、十七音という極限まで切り詰められた字数の中に、かえって無限の空間が広がることを、生徒に感じさせたい。

変化に富んだ四季の移り変わりの中で、日本人の感性や美意識が豊かに育まれてきたことを、短歌・俳句の学習を通じて伝えたいものである。

◆参考資料◆

生徒だけでなく、指導者にとっても有用な書籍である。

小海永二『現代詩の解釈と鑑賞事典』旺文社　一九七九年

近代・現代の名詩二一三編を収め、詳しい解釈と鑑賞を記したほか、詩作のための表現技法についても解説した一冊。

瀬戸賢一『日本語のレトリック―文章表現の技法―』岩波ジュニア新書　二〇〇二年

隠喩や換喩などのレトリック三〇種類を分類・説明した一冊。

加藤治郎『短歌のドア』角川書店　二〇一三年

映画の歌・遊びの歌など異色の分類が魅力的な、人気の歌人による短歌の入門書。

栗木京子『短歌を楽しむ』岩波ジュニア新書　一九九九年

短歌の面白さ、奥深さを分かりやすい表現で説く、現在活躍中の女流歌人による入門書。

神野紗希・水野タケシ『これから始める俳句・川柳　いちばんやさしい入門書』池田書店　二〇一四年

俳句と川柳の違い、それぞれの基礎知識、素材の見つけ方、作り方のコツなどを丁寧に解説した入門書。

コラム⑬【連詩の試み】

連詩とは、詩人の大岡信氏が、連歌・連句を発展させて提唱したものである。東京書籍発行の『国語　四年下』には「連詩にちょうせんしよう」という単元名で教材化されている。連歌や連句のように厳格な規則は定まっていないが、ここではＪＡＸＡ（独立行政法人宇宙航空研究開発機構）が募集した「宇宙連詩」のルールを紹介する。

一　五行の詩を「発句」として、つぎに三行の詩、さらに五行の詩、……と、五行の詩と三行の詩を繰り返していく。

二　直前の詩の中から、ある言葉、または、ある一行を引用して次の詩を作成する。「引用」については、直前の詩の中の言葉や行を直接引用しても、直前の詩の中の言葉や行のアイディアを踏襲して別の言葉に変更してもよい。

三　連詩をつくる（続ける）ために、以下の点に気を付ける。

（一）直前の詩の内容にあまり縛られることなく、自由に発想する。

（二）抽象的な表現に終始せず、具体的な作品にする。

（三）次に続くように、完結させない。

五行・三行の詩を書くことが難しいのであれば、一行の詩で続けていってもよい。例えば、雑誌「現代詩手帖」ではツイッターを利用し、一行の詩は四十文字以内という文字制限を設けた「ツイッター連詩」を募集していた。

資料５

国語科（国語総合）学習指導案　　指導者　＊＊　＊＊　印

一　日　時　　平成＊＊年＊月＊日（＊曜日）　第＊時間目（50分）

二　学　級　　第一学年＊組　＊名（男子＊名　女子＊名）

三　単元名　　読み比べることで、詩の表現効果を考えよう

四　単元の目標

（1）文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりしようとする。（関心・意欲・態度）

（2）文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図を捉えたりする。（読む能力）（「C読むこと」（1）のエ）

（3）文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。（知識・理解）（「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」（1）のイの（イ））

五　取り上げる言語活動と教材

（1）言語活動

詩と散文を読み比べ、内容や表現の仕方について感想を述べたり、場面の展開に従って紙芝居にしたりすること。

（2）教材　三好達治「甍のうへ」、芥川龍之介「羅生門」（『国語総合』＊＊出版）

六　単元の具体的な評価規準

（1）文章の内容や表現の仕方について、根拠を明確にして判じようとしている。（関心・意欲・態度）

（2）文章の内容や表現の仕方について、根拠を明確にして判じている。（読む能力）

（3）文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。（知識・理解）

七　指導観

（1）単元観

韻文の読解を苦手とする生徒は多いが、意味の理解に偏った学習ではなく、韻文特有の表現効果を感じる学習をすることにより、情景や心情、言葉のリズムを楽しむことができる。

（2）学習者観

真面目で学習に意欲的な生徒が多いが、授業中は受動的になりがちである。グループ学習等を通じて、自ら考え、意見を述べる姿勢を育てたい。

（3）教材観

「甍のうへ」は文語詩であるが、言葉は比較的平易で、リズムが美しく、情景を思い浮かべやすい。音読や黙読を繰り返し、既習の「羅生門」の文体と比較することを通して、韻文特有の場面展開やリズムを体感させることができる教材である。

八　単元の指導計画　（配当時間３時間）

次 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第一次 1時間	・「甍のうへ」と「羅生門」（行分けを施したもの）を、ペアで読み比べる。（ワークシートⅠ） ・「甍のうへ」について、意味の分からない語句・視点人物・季節や場所について、五人グループで話し合って明らかにする。（ワークシートⅡ）	・言葉のリズムや韻律の違いに気付かせる。 ・グループワークの様子を観察し、解決できていない課題があれば学級全体で共有して、学級全員が理解できるようにする。	◇（2） ◆記述の確認 （ワークシートⅠ） ◇（3） ◆記述の確認 （ワークシートⅡ） ＊ワークシートの内容について、対話を通して理解を深めさせる。

資料５

第二次 ２時間		
・ワークシートⅠの「羅生門」と「鴟のうへ」を紙芝居にすると、それぞれいくつの場面に分けられるか、グループで考える。（ワークシートⅢ） ・グループ内で分担を決めて、紙芝居を作る。 ・出来上がった紙芝居を他の班と見せ合い、違いについて考える。作業を通じて、詩の内容について再度振り返る。（ワークシートⅣ） ・詩に描かれた情景と心情について読み取ったことを、詩中の言葉を根拠として述べる。（ワークシートⅤ）	・主語と述語に注目させ、詩の一行が散文の一文と同様の働き（場面構成）をしていることに気付かせる。 ・絵の巧拙は問わないこと、その場面に出てくる人や物に着目することを伝える。 ・前半と後半の場面の対比から、視点人物（「われ」）の心情が浮かび上がることに気付かせる。	◇（１） ◆記述の確認 （ワークシートⅣ） ◇（２） ◆記述の分析 （ワークシートⅤ）

九　本時（全３時間中の３時間目）の目標

場面の対比に注目し、視点人物の心情を読み取る（読む能力）。

十　本時の評価規準

前半と後半のコントラストに気付き、視点人物の心情を読み取っている（読む能力）。

十一　本時の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 （５分）	・本時の学習内容を知る。	・紙芝居の比較を通じて作品を読み深め、文章にまとめることを知る。	・紙芝居の比較は、詩を読み深める手段であることを理解させる。
展開 （40分）	・紙芝居の比較をする。 ・詩の読解を文章にまとめる。	・隣の班と紙芝居を比べ、場面の区切り方、登場する人や物について、グループで話し合う。気付いたことをワークシートⅣにまとめる。 ・学級全体で一つの紙芝居を鑑賞し、自分の班の紙芝居と比べて気付いたことを指摘し合う。詩についての新たな気付きを、ワークシートⅣにまとめる。 ・詩の情景と「われ」の心情について、詩から読み取ったことをワークシートⅤにまとめる。	・紙芝居の違いは読み取り方の違いを反映していることに気付かせ、どちらがより作品の内容を忠実に反映しているか、考えさせる。 ・明らかな誤読をしている班がないか確認し、あれば誤りに気付かせる。
終結 （５分）	・次時の内容を知る。		・ワークシートⅢ、Ⅳ、Ⅴを回収する。

十二　御高評

詩の表現効果について考えよう　ワークシートⅠ

（　）組（　）番　氏名（　　）

課題一　**「甃のうへ」と「羅生門」（行分け）を読み比べてみよう（ペア音読）。**

A　「甃のうへ」（韻文）

甃のうへ　　三好達治

あはれ花びらながれ
をみなごに花びらながれ
をみなごしめやかに語らひあゆみ
うららかの甍音空にながれ
をりふしに瞳をあげて
翳りなきみ寺の春をすぎゆくなり
み寺の甍みどりにうるほひ
廂々に
風鐸のすがたしづかなれば
ひとりなる
わが身の影をあゆまする甃のうへ

B　「羅生門」（散文）※比較のために行分けを施した。

羅生門　　芥川龍之介

すると、老婆は、
見開いていた目を、
いっそう大きくして、
じっと
その下人の顔
を見守った。
まぶたの赤くなった、肉食鳥のような、鋭い目
で見たのである。
それから、しわで、ほとんど、鼻と一つになった唇を
何か
物でもかんでいるように、動かした。
細い喉で、とがった喉ぼとけ
の動いているのが見える。

設問　音読した印象がどのように違うか、その理由も考えて記してみよう。

資料５

資料５

詩の表現効果について考えよう　ワークシートⅡ

課題二　**「甃のうへ」について、分からないところをグループで解明しよう。**

（　）組（　）番　氏名（　　）

設問１　「甃のうへ」について、意味の分からない言葉を挙げ、話し合って解決しよう（国語辞典使用可）。

設問２　この詩は誰の視点から描かれているか（「花びら」「おみなご」「み寺の甍」を見ているのは誰か）。考えて、話し合ってみよう。

設問３　設問２の人物は、どのような人（性別・年齢・身分・その他）か、また今どんな気持ちなのだろうか。想像して話し合ってみよう。

設問４　この詩の季節、場所を考えよう。

資料５

詩の表現効果について考えよう　ワークシートⅢ

（　）組（　）番　氏名（　　）

課題三　**「甃のうへ」と行分けされた「羅生門」とをグループで紙芝居にしてみよう。**

設問１　ワークシートⅠの「羅生門」を紙芝居にすると、いくつの場面になるか。グループで話し合い、区切ってみよう。

第１場面【　　】から【　　】まで
第２場面【　　】から【　　】まで
第３場面【　　】から【　　】まで
第４場面【　　】から【　　】まで
第５場面【　　】から【　　】まで
第６場面【　　】から【　　】まで
第７場面【　　】から【　　】まで
第８場面【　　】から【　　】まで
第９場面【　　】から【　　】まで
第10場面【　　】から【　　】まで

設問２　「甃のうへ」を紙芝居にすると、いくつの場面になるか。グループで話し合い、区切ってみよう。

第１場面【　　】から【　　】まで
第２場面【　　】から【　　】まで
第３場面【　　】から【　　】まで
第４場面【　　】から【　　】まで
第５場面【　　】から【　　】まで
第６場面【　　】から【　　】まで
第７場面【　　】から【　　】まで
第８場面【　　】から【　　】まで
第９場面【　　】から【　　】まで
第10場面【　　】から【　　】まで

設問３　区切る上で手がかりとなったのはどんなことか。話し合って記そう。

設問４　韻文と散文の違いについて、気付いたことを話し合って記そう。

資料５

詩の表現効果について考えよう　ワークシートⅣ

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

課題四　**「聳のうへ」を実際に紙芝居にしてみよう（グループ内で分担し、一つの場面を一枚の紙に描く）。**

設問１　自分の担当部分（　　行目～　　行目）を紙芝居にするに当たって、困ったこと、苦労したことは何か。

設問２　できた紙芝居をとなりの班と見せ合って、違いを指摘し合おう。

設問３　代表の班の作品を見て、疑問や意見を出し合おう。

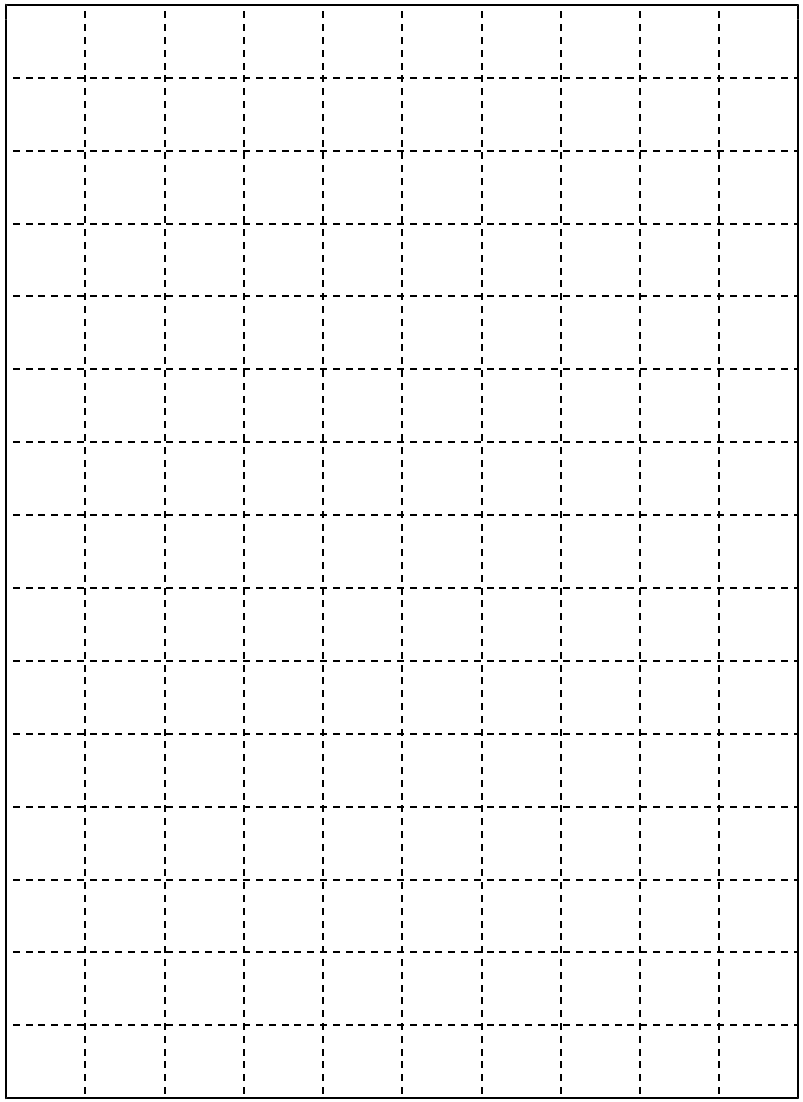
設問４　設問１～３を通じ、詩の内容について新たに分かったことを記そう。

資料５

詩の表現効果について考えよう　ワークシートⅤ

（　　）組（　　）番　氏名（　　）

課題五　詩に描かれた情景と、視点人物の心情を百五十字程度で述べなさい。心情については、あなたがなぜそう判断したのか、根拠となる詩の中の表現を挙げて述べること。



資料６

国語科（国語総合）案　　指導者　＊＊　＊＊　印

一　日　時　　平成＊年＊月＊日（＊曜日）　第＊時間目（50分）
二　学　級　　第一学年＊組　＊＊名
三　単元名　　場面を思い描くことのできる短歌をつくろう
四　単元の目標
（1）優れた短歌を読んでその特長をとらえたり、自作の短歌について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てようとする。（関心・意欲・態度）
（2）優れた短歌を読んでその特長をとらえたり、自作の短歌について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てる。（書く能力）（「Ｂ 書くこと」（1）のエ）
（3）短歌における表現の特色について理解する。（知識・理解）（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（1）のイの（ア））
五　取り上げる言語活動と教材
（1）言語活動
情景や心情の描写を取り入れて、短歌をつくること。（「Ｂ書くこと」（2）のア）
（2）教材「短歌十二首」（正岡子規など）（『国語総合』＊＊出版）
六　単元の具体的な評価規準
（1）短歌における表現の特色を知って作品づくりに役立てたり、自己評価や相互評価を行ってよりよい作品をつくったりしようとしている。（関心・意欲・態度）
（2）短歌における表現の特色を知って作品づくりに役立てたり、自己評価や相互評価を行ってよりよい作品をつくったりしている。（書く能力）（「Ｂ 書くこと」（1）のエ）
（3）短歌における語句の選択や表現の仕方の特徴について、理解している。（知識・理解）
七　指導観
（1）単元観
短歌は、短い言葉によって一つの場面を想像させることにより、作者の思いの一端を伝えることができる文学形式である。そのような短歌の特徴を知り、工夫して場面を想像しやすい短歌をつくってみる。この言語活動により、表現力をより豊かにすることができる。また級友の作品を読み、批評する言語活動により、どのように表現すると作者の思い描く場面が読み手に伝わるのかが実感でき、批評力を養うことができる。
（2）学習者観
文章を書くことは好きではないが、創作的な活動には積極的に取り組む生徒が多い。級友と作品を読み合い、批評したり投票したりする活動を通して、級友の作品を読む楽しさや、自分の思いが相手に伝わる喜びを感じ、表現に対する意欲や書く力を高めてほしい。
（3）教材観
近代短歌には、場面や情景を描くことによって、作者の心情を伝える作品が多い。教科書掲載の近代短歌は、短い言葉で場面を印象的に伝える方法について学ぶための、格好の教材である。
八　単元の指導計画〔配当時間４時間〕

次 時間	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◇評価規準、◆評価方法、＊努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次 1時間	・「くれなゐの」（子規）、「その子二十」（晶子）、「不来方の」（啄木）、「白鳥は」（牧水）、「春の鳥」（白秋）、「のど赤き」（茂吉）、「マッチ擦る」（修司）の歌を繰り返し音読し、どんな場面を想像するか、ペアで話し合う。 ・場面を想像させる言葉や表現に傍線を引き、どのような言葉によっ	・短歌の意味がおおよそ理解できるように、生徒の実態に応じて、難解な言葉や文法については、簡単に解説する。	◇（3） ◆記述の確認（ノート） 行動の観察（ペア活動）
	・「色彩」「数詞」「動植物名」など、対象の映像が浮かぶような言葉を使ったり、「季節」「時間」		

資料６

	て、読者は場面を思い描くことができるのか、班で話し合い、ノートにまとめる。その後クラス全員で共有する。		
第２次 １時間	・読み手が場面を思い描きやすいように工夫をして短歌をつくり、ワークシートⅠに記す。 ・ワークシートⅠをペアと交換して読み合う。ペアは感想と評価を記して、作者に返却する。 ・ペア以外の二、三人にも読んでもらい、自由コメント欄にメモする。 ・ペア等の評価を参考にして、推敲したり新たな作品をつくったりして、提出作品とする。	「場所」「地名」などを限定したりすることによって、場面が想像しやすくなることに気付かせる。	
		・窓から外を眺めたり、写真や図鑑を眺めたりできるよう、図書室などで行うとよい。生徒の実態や校内の事情に配慮した上で、短歌をつくる活動は、中庭やグラウンド等で行ってもよい。 ・短歌や俳句は、作者の「伝える力」と、読者の「読み取る力」が両方あって成立する文学だということを伝える。 ・全員の提出作品を無記名のプリントにして全員で読み、気に入った作品に投票し、結果を公表することを伝える。 ・ワークシートⅠを回収する。	◇（２） ◆記述の確認 ワークシートⅠ
第３次 ２時間	・クラス全員の作品（無記名）を、読み味わう。 ・自分の作品の前の番号の作品（１番の作品の生徒は、最後の作品）と、よい作品だと思う３首について、ワークシートⅡの評価票に、作品番号と批評を書く。	・ワークシートⅠの提出作品を、無記名のプリントにし、通し番号を付けて配布する。批評会が行いやすいよう、教室の座席に合わせて作品を配列するとよい。 ・ワークシートⅡを回収する。 ・次時に短歌一首（最終作品）を提出することを予告する。	◇（１） ◆記述の分析 ワークシートⅡ
	・班別批評会を行う。 ・人気作品ベスト３について、ペアで感想を述べ合う。 ・評価票を読み、最終作品をワークシートⅢに記す。 ・ワークシートⅢに振り返りを記入する。	・指導者または生徒が音読する。よいと思う作品に印をつけておくよう指示する。 ・批評は、「どの言葉や表現がよかったか」「どんな場面やどんな心情が伝わってきたか」を書くよう指導する。 ・ワークシートⅡを回収する。 ・得票数を集計し、人気作品ベスト３を把握しておく。ワークシートⅡを切り離し、評価票を、作者ごとにまとめておく。 ・批評のポイントを伝える。 ・作者名の入った作品プリントを配り、人気作品ベスト３について優れている点を分析させる。 ・評価票を作者に渡す。 ・最終作品は、作者名入りの学級詞華集としてまとめ、後日配布することを伝える。 ・ワークシートⅢを回収する。	◇（２） ◆記述の分析 ワークシートⅢ（最終作品）

資料６

九　本時の目標

自己評価・相互評価を通して、場面を想像できる短歌をつくる表現方法について考えを深め、自分の表現に役立てる。（書く能力）

十　本時の評価規準

自己評価・相互評価を通して、場面を想像できる短歌をつくる表現方法について考えを深め、情景や心情のよりよく伝わる短歌をつくっている。（書く能力）

十一　本時（全４時間中の４時間目）の指導

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入（２分）	・作品の批評会と最終作品づくりをすることを知り、班活動の準備をする。	①前時に配布したプリントの作品番号順に、四人一組で班をつくる。	①相互評価を通して、場面を想像できる短歌をつくる方法について考えを深めるという、本時の目標を示す。
展開１（18分）	・班別に批評会を行う。	②司会者を決め、一首につき四分（一人一分）程度でコメントをする。	②「どんな場面を想像したか」「どの表現がよいか」「どの部分が伝わらないか」を述べること、気付いたことはワークシートⅢのメモ欄に記すことを指示する。
展開２（10分）	・作者名入りの作品プリントを読み、人気作品ベスト３を知る。	③人気作品ベスト３のよい点についてペアで話し合い、その後プリントを読んだ感想を話し合う。	③人気作品ベスト３を口頭で発表し、場面を想像できる短歌をつくるためにどのような表現の工夫がされているか、分析するよう促す。
展開３（18分）	・自作への評価票を読み、最終作品をつくる。 ・単元の学習を振り返る。	④評価票を読み、これまでの学習を踏まえて最終作品をつくり、ワークシートⅢに記す。 ⑤ワークシートⅢに振り返りを記入する。	④評価票を作者に渡し、教科書の作品や自己評価・相互評価を参考にして、最終作品をつくるよう指示する。最終作品は旧作でも新作でもよいが、旧作の場合は必ず推敲したものを提出するよう伝える。提出された作品は、後日学級詞華集として作者名入りのプリントにして配布することを伝える。
終結（２分）	・次時の内容を確認する。	⑥次の教材の確認をする。	◆ワークシートⅢを回収し、「記述の分析」によって評価する。

十二　ワークシートⅢの評価基準（ルーブリック）

1	2	3
「時間・場所・季節・天候」などの情報を示したり、「色彩」「数詞」「動植物名」「地名」などを具体的に表したりしていないため、読み手に場面や心情を伝えることができていない。	「班別批評会のメモ」「振り返り（a）」を踏まえて、「時間・場所・季節・天候」などの情報や、「色彩」「数詞」「動植物名」「地名」などを示すことにより、読み手が場面を思い浮かべることができる短歌をつくっている。	「班別批評会のメモ」「振り返り（a）」を踏まえて、「時間・場所・季節・天候」などの情報を示したり、「色彩」「数詞」「動植物名」「地名」などを具体的に表すことにより、読み手が場面を思い浮かべやすい短歌をつくり、心情を伝えている。

十三　御高評

資料６

ワークシートⅠ　　〔　　組　　番　　氏名　　〕

☆場面を思い描くことのできる短歌をつくろう

☆自歌自注　どんな場面や気持ちを伝えたかったか、文章で記しましょう。

☆ペアの感想・評価　〔ペア…　　組　　番　　氏名　　〕

☆作者の伝えたかった場面が（Ａ　よく分かる　　Ｂ　だいたい分かる　　Ｃ　分からない）

☆感想及び改善点

☆ペア以外の感想・評価など（自由メモ欄）

☆推敲後の作品（新たな作品でもよい）→提出作品とする。

ペアの感想・評価を参考にして、自作を推敲したり、新たな作品をつくったりしましょう。

資料６

ワークシートⅡ

評価票〔自分の作品の一つ前の番号の作品＋気に入った作品３首＝４首　について批評を書く〕

自分の作品の前の番号〔　　〕番　　批評者氏名〔　　〕

感想・批評　場面が（Ａ よく分かる　Ｂ だいたい分かる　Ｃ 分からない）

優れていると思う作品の番号〔　　〕番　批評者氏名〔　　〕

感想・批評　場面が（Ａ よく分かる　Ｂ だいたい分かる　Ｃ 分からない）

優れていると思う作品の番号〔　　〕番　批評者氏名〔　　〕

感想・批評　場面が（Ａ よく分かる　Ｂ だいたい分かる　Ｃ 分からない）

優れていると思う作品の番号〔　　〕番　批評者氏名〔　　〕

感想・批評　場面が（Ａ よく分かる　Ｂ だいたい分かる　Ｃ 分からない）

資料６

ワークシートⅢ　〔　組　番　氏名　〕

☆班別批評会のメモ

相互評価を聞いて、気付いたことや参考になった意見を記しておきましょう。

☆最終作品

自己評価や相互評価を参考にして、最終作品をつくり、提出しましょう。授業で提出した作品を推敲したものでも、新作でも構いませんが、以前提出したものと一字一句違わない作品の提出は認めません。二首以上記した場合は、一首を選んで学級詞華集に掲載します。

☆自歌自注

どんな場面や気持ちを伝えたかったか、文章で記しましょう。

☆振り返り

①場面を思い描くことのできる短歌をつくる方法について、理解したことを記しましょう。

②この単元についての感想を記しましょう。